

平成25年度「夏休み！地球市民講座」 ～アフリカ開発会議（TICAD V）から見てくるもの～

●第5回アフリカ開発会議（TICAD V）をテーマに、アフリカ地域研究者・勝俣誠明治学院大学教授、TICAD Vに参加した国際機関や青年海外協力隊OB・OG等をパネリストに迎え、アフリカについて考えるセミナー。アフリカの現状は何か、そして今後、どのような開発や支援、かかわり方の可能性があるかを議論する。また、アフリカと繋がることを仕事としている20代の青年をパネリストとして招き、質疑応答形式で懇談・交流する「キャリア懇談会」も設ける。
（※2013年夏休み企画@JICA横浜『アフリカー手をつないで前へ』への参画事業
主催：横浜市、JICA横浜、FAOH本事務所、国連WFP協会）

- 日時・場所：2013年8月31日（土）、
JICA横浜（横浜市中区新港2-3-1）
- 交通：みなとみらい線馬車道駅 徒歩8分
JR桜木町駅もしくは、関内駅北口から徒歩15分
- 定員：70名
- 対象：高校生以上30才以下の方
- 参加費：500円（資料代込み）

◆プログラム内容

【第1部】 13:00～15:00

◎基調講演：「今、なぜアフリカか？」
（※TICAD Vが日本で開催された意義、現状の課題、問題提起）



勝俣 誠（明治学院大学 国際学部・
国際学科教授 アフリカ地域研究／上写真）

◎パネルディスカッション：国際機関からの報告

コーディネーター

・勝俣 誠 明治学院大学教授

パネリスト

・FAO（国連食糧農業機関）日本事務所 代表 伊藤 正人

・WFP（国連世界食糧計画）

日本事務所 支援調整官 中井 恒二郎

・ITTO（国際熱帯木材機関）

・JICA（独立行政法人 国際協力機構）

【第2部】 15:15～16:00

◎キャリア懇談・交流会

～若者はアフリカとどうかかわれるか？～

（司会・進行）国際機関実務体験プログラム

OB・OG “OVER100”



◎FAO/Antonello Proto：
ガンビア

パネリスト

・勝俣 誠 明治学院大学教授

・秋月 悠也（独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源
機構（JOGMEC）勤務・青年海外協力隊OB）

- ・高橋 遼（東京大学大学院博士課程・学術振興会
特別研究員 アフリカ地域研究）
- ・三橋 利佳（丸紅物流勤務・青年海外協力隊OG）

【詳細】YOKEのHP <http://www.yoke.or.jp>
「YOKEからのお知らせ」をご参照ください。

【申し込み方法】

公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）へ電話またはEメールでお申し込みください。その際に①氏名、②年齢、③連絡先電話番号とEメールアドレスをお知らせください。

●電話：（045）222-1174

（平日：9:00～17:30、第2・第4土曜日：10:00～13:00）

●Eメール：chikyu@yoke.or.jp

【受付開始】2013年7月11日（木）9:00～

・定員になり次第、締切とさせていただきます。

【お問合わせ先】

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1

パシフィコ横浜、横浜国際協力センター5階

公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）

「夏休み！地球市民講座」担当：内田・村井

●TEL：（045）222-1174

●Eメール：chikyu@yoke.or.jp

【主催】公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）

【協力】横浜市、JICA、FAO（国連食糧農業機関）日本事務所、国連WFP協会、ITTO（国際熱帯木材機関）、国際機関実務体験プログラムOB・OG “OVER100”

【後援】横浜市教育委員会、神奈川県私立中学高等学校協会（横浜市私立中学高等学校長会）、神奈川新聞社、朝日新聞社横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞社横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、外務省、世界銀行（予定）

第286号 自治体国際化フォーラム8月号

平成25年7月15日発行

編集人 藤田 穰

発行所 財団法人自治体国際化協会

〒102-0083

東京都千代田区麹町1-7

相互半蔵門ビル

Tel. (03) 5213-1722

Fax. (03) 5213-1741

Homepage <http://www.clair.or.jp/>

E-mail forum@clair.or.jp

編集協力・印刷 エイト印刷株式会社

本書からの無断複写・転載を禁じます。

編集後記

もう10年近く前のことですが、ソフィア・コッポラ監督の映画『ロスト・イン・トランスレーション』を見た海外の友人が、渋谷のスクランブル交差点の映像に驚いて、「いつか東京に行って、大群衆と一緒にあの横断歩道を渡りたい！」と興奮気味に話していたのを覚えています。住んでいる人間には当たり前ですが、ほかの土地の人から見れば魅力的に映るのでしょうか。わたしにとっては、東京という都市の魅力を再発見した機会でした。

今回の特集テーマは「フィルムコミッション」。近年、日本全国で数多くのFCが活動し、たくさんの「ご当地映画」、「古里映画」が生まれています。映画を通して、観客が知らない土地の魅力を発見し、ロケ地の住民が地域の魅力を再発見する——。そんな幸福な関係が、これから日本中でもっともっと生まれてほしいと思っています。（K.T）